

講義録レポート

講義録コード

11-07-1-501-02

講 座	証券アナリスト	科目①	B
目標年	2007年合格目標	科目②	証券分析とポートフォリオ・マネジメント
コース	1次セミナー	回 数	1 回
用 途	☒ 個別DVD ☒ テープレクチャー ☐ 集合ビデオ ☒ WEB ☐ 衛星 ☒ カセット通信 ☒ DVD通信 ☐ 資料通信		

収録日	2006 年 5 月 10 日		
講師名	岩本 先生	講義録 枚数	2 枚 ※レポート 含まず
		補助レジュメ 枚数	4 枚 (サイズ)

講義構成	講義 (58) 分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
配布物	有 ☒ 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 ☒ 無	枚	
備考			
	☐ 共通レジュメ 有 ☒ 無 第 () 回講義と共通		

証券アナリスト 講義録	科目 1次セミナー	コース 証券分析	回数 B
-------------	--------------	-------------	---------

配布物 ★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 山本 先生
---	--------------------------------------	-------------

テキスト ページ	黒板 内容			
	<1次 証券分析とポートフォリオ マネジメント> アプローチセミナー <table><tr><td>証券 180分</td><td>財務 90分</td><td>経済 90分</td></tr></table> ↳ 大問 7 問 (小問 平 18 : 109 問 平 17 : 115 問 平 16 : 114 問 } ・合格ライン : 60% ・基本問題 : 85 ~ 90% ×新規問題 : 15% ・学習方法 過去問 (3 年分 ~ 5 年分) <12 ~ 2 月> 介 ・協会通信テキストの利用 「証券投資論」...× ・市販テキストと問題集 ・学校の利用	証券 180分	財務 90分	経済 90分
証券 180分	財務 90分	経済 90分		

証券アナリスト 講義録	科目 1次セミナー	コース 証券分析	回数 B
-------------	-----------	----------	------

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 岩本 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	証券分析 と ポートフォリオマネジメント 財務1次 ⑥ 株式分析 (⑤ファンダメンタル分析) ⑦ 債券分析 ⑧ デリバティブ ⇒ <u>価格</u> = 理論価値 (本質的価値) ↔ 市場価格 ③ 現代ポートフォリオ理論 ⇒ <u>最適ポートフォリオの構築</u> ④ ポートフォリオマネジメント ⇒ <u>パフォーマンス評価</u> ② 計量・統計 <u>「正規分布」</u> ・証券分析 ← ・単利と<u>複利</u> ・現在価値, 将来価値 ・先物とオプション { ・ルール ・ポイント ・ポートフォリオ・マネジメント ↳ 期待値とは? ・分散, 標準偏差とは?

<証券分析とポートフォリオ・マネジメント アプローチ・セミナー>

■1. CMA プログラムの改訂<1 次 証券分析に関する部分のみ>

(1) 通信テキストで完結する教育体系

現在のプログラムは基本テキスト(「証券投資論」 日本経済新聞社)をベースに通信テキストはこれを補完するという体系であるが、カバー範囲が広範になり受講者にとっては負担感が大きい。受講者利便のために通信テキストで完結する体系とする。現行の基本テキストは「推奨テキスト」に指定する。

(2) 計量分析と統計学の取扱い

「計量分析と統計学」は現行では1次レベルで3冊のテキストとなっており、多くの受講者にとって負担感が大きく、結果として未消化となっている場合もある。「計量分析と統計学」は1次、2次各一冊とし、学習の平準化・効率化を図る。

(3) 試験について

1次試験は3科目合格が2次に進む要件であり、現行の年1回試験では1科目僅差でミスしたために1年棒に振ることもあり得る。1次試験は年2回実施する(4月、10月)。この場合、秋期試験(2回目)で3科目合格になった人も、申し込みをすれば翌年春の2次試験を受験可能とする。なお、現在の1次試験の時間配分や難易度は概ね妥当と考えられる。

■2. 「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」通信テキスト体系

① 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの基礎
② 計量分析と統計学(1)
③ 現代ポートフォリオ理論
④ 証券市場の機能と仕組み
⑤ 企業のファンダメンタル分析
⑥ 株式分析
⑦ 債券分析
⑧ デリバティブ分析
⑨ ポートフォリオ・マネジメント・プロセス

(参考) 旧制度の1次通信テキスト体系

① 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの目的と課題	
②-1 証券市場の機能と仕組み	②-2 計量分析と統計学(1)
③-1 産業動向分析	③-2 計量分析と統計学(2)
④-1 企業のファンダメンタル分析	④-2 計量分析と統計学(3)

⑤-1 債券分析	⑤-2 債券格付け
⑥ 株式分析	
⑦ デリバティブ分析	
⑧ ポートフォリオ・マネジメント	

■3. 「1 次証券分析とポートフォリオ・マネジメント」CMA コア知識

項 目	重要度
1. 証券市場と経済	
証券投資のリターン	★★
株式と債券のリターンの源泉	★★
証券の種類と証券市場の仕組み	★★
経済動向と証券リターン	★★
産業動向と証券分析・リターン	★★
2. 企業の分析	
BS と PL	★★★★
キャッシュフロー	★★★★
営業・財務レバレッジ	★★★★
PER、PBR	★★★★
財務分析と格付け	★★★★
企業の競争戦略	★★
3. 収益率(リターン)	
収益率の定義	★★★★
事前・事後の収益率	★★
複利利回り	★★★★
幾何平均と算術平均	★★★★
連続時間複利	★★
現在価値・将来価値	★★★★
キャッシュフロー割引と資産価値	
①NPV	★★★★
②IRR	★★★★
③DDM	★★★★
要求収益率(割引率)の決定	★★★★
金額加重平均と時間加重平均	★★

債券利回り(IRR)	★★★
スポットレートと債券価格	★★
フォワードレート	★★
4. リスク	
分散と標準偏差	★★★
正規分布	★★★
共分散と相関係数	★★★
ポートフォリオとリスク	★★★
5. 現代ポートフォリオ理論	
投資家の選好と効用無差別曲線	★★★
平均分散モデルと効率的フロンティア	★★★
資本市場線と分離定理	★★★
CAPM とベータ、証券市場線	★★★
効率的市場仮説	★★
無裁定条件とリスク中立確率	★★
6. ポートフォリオのリスクとリターン	
(1) 株式ポートフォリオ	
CAPM とベータ、シングル・インデックス・モデル	★★★
CAPM とアノマリー	★★
リスクの管理(ベータ、TE)	★★★
パフォーマンス評価(シャープ・レシオ、IR)	★★★
(2) 債券ポートフォリオ	
デュレーション	★★★
コンベクシティ	★★
利回り曲線の形状変化	★★
イミュニゼーション	★
デフォルトリスク/格付けと社債利回り	★★
(3) 最適ポートフォリオの決定	
無リスク資産とリスク資産(2 資産)の最適化	★★
7. デリバティブ(オプションと先物)	
先物・フォワード・スワップ	★★★
コールとプット	★★★
オプション投資戦略	★★★
2 項モデル	★★
リスク中立確率	★★

プット・コール・パリティ	★
ブラックショールズモデル	★★
8. 投資の意思決定プロセス	
(1) 投資政策	
要求収益率と制約条件	★★
リスク許容度と最適ポートフォリオ	★★★
投資政策書	★★★
(2) アセット・アロケーション	
ポリシー・アセット・アロケーション	★★★